

このページは、小・中学生に向けて
梅光学院大学子ども学部子ども
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
作っています。

※イラスト 児島希美さん

しものせき キッズページ

「火消鯨で防災体験をしよう！」



▲消火体験では、スクリーンに映し出される火を、消火器の水を使って消します。どの場所に水を当てるかが、重要です。

もしも目の前で突然火災が起きたら、皆さんはどうしますか？
何をすべきかは、体で覚えるのが一番です。いざという時のために「火消鯨」で体験してみましよう。

「火消鯨」って
どういうんです？



下関市消防防災学習館「火消鯨」(岬之町)は消防・防災について学習し、正しい災害の知識や対処方法を身に付け、「もしも」の災害に備えるための体験型学習施設です。自然災害や火災は、起きてから行動するのでは間に合いません。日ごろからしっかりと学んだ知識を

深め、備えることが、とても大切になってきます。

「火消鯨」には、消火体験や煙避難体験、通報体験などいろいろな災害を模擬体験するコーナーが設けられています。実際に体験することで、「もしも」の災害が起きたときの落ち着いた対応を学ぶことができます。

今回は、7つの体験コーナーのうち、消火体験と煙避難体験の様子を紹介します。

消火器、使った
ことありますか？



下関市では平成27年1月から11月末までに、すでに61件の火災が発生しています。これでも火災発生件数は減少傾向だそうです。皆さんは火災の際に大切なことは何だと思えますか。「火を消すこと」と「だ」と考えている人が多いと思います。そうではなく、大切なのは、「ここで火災が起こっていることを周りに知ってもらうこと」なのです。「火消鯨」での消火活動体験では、実際に火災が起こる様子をスクリーン映像として見ることで、普段なかなか扱わない消火器を実際に扱うことで体験しながら学ぶことができます。

煙に囲まれたら…



火災によって発生した煙をたくさん吸ってしまつと、死に至る危険性があるほど、煙というのは恐ろしいものです。

この煙避難体験は、煙が充満した迷路のような暗い部屋から、できるだけ煙を吸わないように避難することで、もし、火災が起きたときにどうやって避難するか、学ぶことができます。

まず、煙を直接吸わないようにハンカチや洋服を口にあてます。火災で熱せられた煙は上昇するので、煙を避けるため、姿勢を低くして進みます。

大学生の私たちでも「怖い」と思ったほど、視界がほぼ閉ざされている状態。頼りになるのは、非常口を案内する看板と、自分の手で壁を触れる感覚のみ。この情報の少ない状態の中で、避難することができかな？

学校ではできないリアルな体験をしてみたいかがでしょうか。

★下関市消防防災学習館「火消鯨」
開館時間 午前9時30分～午後4時30分 ※利用無料
※休館日 月曜日、第2・4土曜日
※詳細は問い合わせを
☎ 233-9110



1月号の編集記者(左から)
坂本啓彰さん、安藤壮志さん、
井上一樹さん



▲通報体験コーナーでは、通報するときにどんな情報が必要かを学ぶことができます。



▲煙避難体験の煙は、人体に無害なものです。安心して利用することができます。